

三芳町
10の魅力
...
共生社会
Inclusive Society

共生社会=障がいの有無、性別、国籍、人種、年齢等に関わらず、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支えあい、誰もが生き生きとした人生を送れる社会を目指しています。

We aim to be a society where everyone values one another's human rights and dignity, regardless of impairment, gender, nationality, race, or age: a society which supports everyone in leading a full life.



誰ひとり取り残さず
自分らしく生きられるまち

共生社会ホストタウンに登録

これまで町は手話言語条例の制定や、あいサポート運動などに取り組んできました。令和2年3月、マレーシアの共生社会ホストタウンとして国より認定されたことを契機に、共生社会推進懇談会を発足。心のバリアフリーとユニバーサルデザインのまちづくりを目指し、取り組んでいます。

共生社会ホストタウン

福祉喫茶ハーモニ

障がいのある人と住民、地域が調和する「福祉喫茶ハーモニ」。役場隣のコンビニみよし内にある障がい者就労B型事業所です。みよし野菜を使ったメニューや町のキャラクターの焼き菓子などを販売し、地域活性化にも貢献しています。

※障がいのある方が就労訓練を受けられる福祉サービス



あいサポート運動

障がいがある人もない人も暮らしやすい社会をみんなでつくる運動。障がいを知り、必要な配慮を学ぶ「あいサポーター研修」修了者に「あいサポート」バッジを差し上げています。



三芳太陽の家

心身に障がいのある人が通所し、サービスを受けられる施設で、創作活動や生産活動も行っています。

平成2年に町立施設として事業を開始し、平成23年には社会福祉法人人間東部福祉会に運営を移管。令和3年5月に上富地区から役場敷地内に移転・新築されました。

社会福祉協議会

町の社会福祉向上のために、関連機関や団体、住民の皆さんの参加・協力のもとに活動しています。

シニアのコミュニティ形成や生活相談、経済支援、福祉教育、ボランティアセンター、福祉まつりやバザーなどのイベントも行っています。

日本語を母語としない子どもたちへ NPO法人 街のひろば

外国につながる子どもたちや、ひとり親家庭、生活困窮家庭への学習支援と居場所づくりに取り組んでいる法人です。

小中学生を対象に、毎週月・水・金曜日の放課後や夜間に町内の公共施設等において、教員・日本語指導・福祉職経験者や地域の大学生・高校生のボランティアによる無償の補習教室を開催しています。

日本語・学力向上に成果を上げたこと等が評価され、平成28年に内閣府「子どもと家族 若者応援団賞」と埼玉県「埼玉グローバル賞」受賞、平成30年に博報財団「第49回博報賞」を受賞しました。



「広報みよし」街のひろば

こども食堂

地域の子どもたちやそのご家庭に、食事や安心安全の居場所を提供する活動です。

三芳町には現在12箇所あります(令和3年7月時点)。地域のボランティアによつて運営され、食材は地域の農家や企業寄付、募金などによつて賄われています。



「広報みよし」こども食堂



パートナーシップ宣言制度を導入

令和3年4月1日よりLGBTQ+のカップルが相互にパートナーであることを宣誓し、町が証明する制度が始まりました。

東京2020オリンピックのホストタウンであるオランダから教育やLGBTQ+の施策について学ぼうと同国大使館よりお招き頂いたオンラインプログラムに参加しました。

※レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等性的少数者の略

映画「スタートライン」オンライン上映

生まれつき耳の聞こえない映画監督・今村彰子さんが自転車で日本を縦断するドキュメント映画。

コロナ禍の令和2年8月、コミュニケーションを題材にしたこの映画をオンライン配信し、町が目指す共生社会について考える機会をつくりました。



中学校での上映会の様子。集会所でも上映会を実施しました。

三芳町認知症サポートセンター

認知症当事者や家族、介護者など誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めるために、令和3年10月1日に「三芳町認知症サポートセンター」を開設しました。

認知症介護に関する相談や認知症に関する正しい知識の普及啓発、認知症当事者、家族など誰もが気軽にかけられる居場所づくりなど、認知症施策推進大綱に基づく「共生」のまちづくりを目指します。

I♥MIYOSHI
三芳町社会福祉協議会 会長 篠原 拓平さん



三芳町社会福祉協議会の会長になってから早10年が経ちました。活動を今まで続けることができたのも地域住民やボランティアの方々のご協力のおかげです。心から感謝しております。社会福祉協議会の責務は「人を救うこと」。今後は基金の設立や貧困家庭の子供の支援強化など、様々なアクションを起こしながら活動を充実させ、次世代に引き継げるように努めて参ります。